

猛禽類の写真でカラスのごみ被害を防ぐことはできるのか

植木 貴活・山内 勇希・関口 高雄 (兵庫県立御影高等学校 総合人文コース)

はじめに

登校中のゴミステーションがカラスの荒らされているのを見て、ゴミネット以外にカラスを遠ざける方法はないか考えた。そこで天敵である猛禽類の画像を併用することで効果を検証した。



方法

1 調査

- ① 学校近辺の西御影親和会、上石屋自治会、および東灘区役所でカラス被害の聞き取り調査を行う。
- ② ゴミ収集日に現地調査を行う。

2 検証実験

- ① 現場でワシやタカの写真を設置する。
- ② 被害状況を検証する。



結果

1 調査

- ① 西御影親和会の代表森本建美さん、上石屋自治会代表の左居政雄さん、東灘区役所の白木孝さんから鳥害の聞き取り調査を行ったところ、近隣での被害はほとんど見られないが、調査は自由に行ってよいと回答をいただいた。
- ② いただいた資料を基に、ゴミステーションの調査を11月～12月の1か月間行ったが、カラスによる被害は認められなかった。

周辺の調査を行うと、学校周辺のゴミステーションでは黄色のゴミネットがしっかりかけられており、カラスの被害は見られなかった。ゴミネットの効果が見られ、住民の意識も高いと思われる。そこで実験を継続するために、以下の方法で餌場を人工的に設置した。

場所 御影高校特別棟屋上

餌場 白いバットに魚肉ソーセージを切り分けて設置

観察 晴天日の午後に設置し、翌日の昼に食べている状況を確認

2 実験結果

タカの写真の枚数	写真なし	写真1枚	写真20枚
結果	食べた	食べた	食べない

考察

屋上に餌場を突然設置したにも関わらず、すぐに食べられたところから、カラスは常に上空から餌を探していると考えられる。またタカの写真1枚では警戒せず、20枚で警戒して食べなかったところから、視覚で食べるかどうかを判断していると思われる。今回の実験だけでは、タカの写真が本当に効果的であったかどうか判断できないので、今後他の動物の写真や図形パターンなどで検証する必要がある。ただ実際のゴミステーションでこのような写真を設置することは現実的ではないので、実験を継続し、カラスの特性をさらに調査してから、最低限の数でカラスが嫌がる写真を探す必要がある。さらにカラス対策ネットと併用しながら住民意識の向上をはかることが、鳥害対策に有効であると思われる。